

令和3年度 にぎわい・交流海道ネットワーク総会（WEB形式） 【来賓挨拶】



ただいまご紹介いただきました国土交通省大臣官房技術参事官の遠藤でございます。本日、「日本海にぎわい・交流海道ネットワーク」の総会が、開催されますことを心よりお祝い申し上げます。

また、会員の皆様におかれましては、日頃より港湾行政に格別のご理解とご支援を賜り、この場をお借りして厚く御礼を申し上げます。

「日本海にぎわい・交流海道ネットワーク」は、平成7年の設立から長きに渡って、港湾を核とした日本海沿岸地域の連携や交流の拡大に取り組んで来られました。

また、東日本大震災以降は、大規模地震等の災害に備えたりリダンダンシー機能の向上を図ることについても、活動目的に加え、取り組んで頂いております。

先般、日本海側から太平洋側を助けに行くという示案がありましたので、ご紹介させていただきます。8月11日に八戸港で座礁船からの油流出事故がありましたが、その際、北陸地方整備局所属の大型浚渫兼油回収船「白山」が現地に駆けつけ、8月13日から23日まで油回収作業に従事し、事態の収束に成果を上げております。本ネットワークの活動目的の一つに「リダンダンシー機能の向上」がありますが、太平洋側の大規模災害に備えていくためにも、本ネットワークによる港湾を核としたゆるやかな連携が重要であると認識を深めております。

また、昨今のコロナ渦の影響で、昨年より国際クルーズが全面的にストップしているものの、一部国内クルーズは再開の兆しが見えてきています。日本海側諸港のクルーズ観光のポテンシャルは高いものがあると考えております。コロナ渦で一時的にストップしている時間を有効活用し、今一度、寄港地観光の磨き上げ、with コロナ時代のクルーズ需要を受け止めるためのコロナ対策、日本海側の魅力を高めるための寄港地間の連携に取り組んでいただけると、さらに日本海側クルーズの可能性が高まるものと考えております。

国土交通省といたしましても、引き続きネットワーク会員の皆様と一体となって、日本海側諸港における物流や観光振興、防災機能向上等の取り組みについて連携を図って参りたいと考えております。

最後になりましたが、この総会の開催に当たり、ご尽力をいただきました村上市の高橋邦芳市長をはじめ、関係者の皆様に深く感謝を申し上げますとともに、ご参加の皆様のご健勝と、日本海にぎわい・交流海道ネットワークの益々の発展を祈念いたしまして、私の挨拶とさせていただきます。